

第1回健康寿命日本一おおいた創造会議委員等の主な意見

・全農では県内でキャンペーン、それから販促活動、各種イベントを展開しているのので、今後機会を捉え、野菜消費拡大とともに健康寿命延伸の取組の強化をしていきたい。

・食育の大切さということで、命を司る食、子どもの生命の維持、発育には欠かせないものであり、心身の発達に大きく関連していることは言うまでもない。すべての子どもの健やかな育ちを保証することが大切だと考えている。

・トマトケチャップを使用したうま塩メニューというのがいろいろとできている。うま塩だんご汁をはじめとして和食のメニューもすべてトマトケチャップを使って、しかもトマトケチャップの味がせず、しっかり和食のうまみを出しておいしく減塩ができるという形で広まっていけば良いと思っている。

・大分県レクリエーション協会では世代を超え、子どもから高齢者までいつでもどこでも誰とでも楽しめるレクリエーションを通して県民の皆さまが健康で豊かな暮らしができ、そしてなおかつ健康寿命日本一を目指す力の一助になればと思って、これからも活動を続けたいと思っている。

・NPO法人大分県ノルディック・ウォーク連盟は組織として小さいが、同じ健康寿命日本一おうえん企業の皆さまと連携することで、より多くの県民の皆さまに健康寿命を延ばすきっかけづくりができればと考えている。ぜひ組織力、企画力、そして大きな影響力をお持ちのおうえん企業の皆さまと連携したい。

・大分県の食生活改善推進協議会も減塩の取組をしており、特に減塩みそ汁は、毎朝飲むみそ汁を0.8から0.7に抑えようということで、それぞれの家庭で頑張っている。毎日の取組をとりあえず続けていくということが大事である。

・新聞社としても、本会議が目指す健康寿命日本一に向けて、職場での健康増進の観点から応援をしていきたいと考えている。

・本年度新たに青い山脈会さまとか大分はつらつフェスタ実行委員会さまと一緒に、すこやか家族博覧会「子育て博から家族博へ！親子三世代を応援！！」ということでイベントを開催する。親子三代で食育、健康相談、レクリエーション、遊びの部分まで含めて9月23日にコンパルホールで行う。

・大分県立看護科学大学学長では「健康増進プロジェクト」を実施している。本学の健康運動学研究室を核に教員、学生たちがボランティアで県教育委員会や自治会・商工会と連携・協力して健康増進に関する研究と地域貢献を行うもの。開学の翌年から約20年実施している。

・ 11月23日、勤労感謝の日に県立総合体育館と大洲総合運動公園一帯で「おおいたスポーツ交流フェスティバル2017」を開催する予定。これはOBS大分放送、総合型クラブおおいたネットワーク、大分県教育委員会、大分県障がい者体育協会、それからNHK大分放送局、各団体組織の皆さまと一緒に手を取り合ってやろうというイベント。

・ 国の日本健康会議において「健康経営優良法人認定制度2017」が設定をされている。今年2月に2017年度の認定法人が、大規模法人部門において235法人、中小規模法人では95社が認定をされた。今年の6月に中小企業の法人部門のみ追加募集が行われ、大分では4社が健康経営優良法人として今回国の認定を受けることができた。

・ 健康寿命日本一にするには、やはり自分自身で健康に気を付けて、ちゃんと健康管理をしていただくということが大事である。食事、それから運動が必要。運動もいろんな企画があって、その時に楽しんではい、運動しました、というのではなくて、週に2、3回は続けないとこれは運動の効果がない思っている。